

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後デイサービス くれよんConte		公表日		2025年 2月 28日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	・宿題に取り組みやすいよう勉強をする部屋、好きなことを楽しめるよう部屋のスペースを十分にとっている。 ・活動に応じた部屋わけもできている。指導室が分けられており、学年や活動に合わせて使い分けている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0	・個別で対応が出来るように意識し、職員の配置を行っている。その日の利用人数に対して、職員の配置を適切に行うことが出来ている。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	・スロープを設置するなど、バリアフリーの配慮が出来ている。日々の会議で、情報の共有を行っている。 ・一人ひとりが合わせた環境設定を行っている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8	0	・毎日掃除の時間をしっかりと確保することで、清潔で心地よく過ごせる環境を整えていくことができています。 ・子ども達の活動に合わせて部屋のレイアウトを変えている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	・必要に応じて活動の部屋を分けるなど、環境作りが出来ている。静かな環境で勉強に取り組める部屋、クールダウンをしたいときは「落ち着きルーム」がありそこに入ることによって気持ちを落ち着かせる		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	8	0	毎日会議を行って、振り返りを行っている。月ごとに目標設定をし、振り返りを行ってから次の目標を立てている。毎朝会議を行い、前日の振り返りを行ったり、毎月目標をみんなで決めてその振り返りを行っている研修を多く設けることで、PDCAについて理解を深めています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・アンケートを実施し、結果についても話し合いを行い、全体で共有することで、改善に向けて協議出来ている。会議を毎日行い、職員全員が内容を把握できるようにしている。毎年ご協力頂いており、改善が必要な時は、職員間で話し合いを行い、改善に努めている。結果について話し合いを行い、業務改善に努めている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	・業務改善ボックスをつくり、職員が意見を言える環境作りが出来ている。日々の会議の中で、意見を共有し改善に向けた協議が出来ている。毎日の会議の中で、職員一人ひとりの気持ちや困りごとを話し、その内容を全員で話し合い意見を出し合うようにしている。毎年アンケートを書いている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8	0	・研修等で意見をもらい、業務改善に努めている。研修などで第三者の評価をもらい、業務改善につなげている研修などで第三者の意見をきき必要ところは改善しています。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	・月1回の研修を実施し、研修後は報告書を提出し回覧することで、他の職員の意見も見れるようにしている。それぞれが請け負っている係りをより改善していけるよう、それを他の職員に詳しく伝えていけるよう個別に研修に参加している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	・日々の会議で支援についての共有と協議を行うことが出来ている。会議で月の始めにその月の支援をどのように行っていくか、また月末にはその月の支援に対する反省を行っている。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	・アセスメントを適切に行い、日々の会議のなかでも子どもの様子を伺いながら、客観的に分析を行い計画を作成できている。定期的なアセスメントをとり計画を作成している。保護者の方から本人の様子などを聞いて、今必要な支援はなにかを見極めて、作成している。		
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	・保護者からの聞き取りだけでなく、日々の会議のなかで職員の意見も伺いながら、共通理解のもとで協議を行うことが出来ている。 ・会議などで職員全員で支援内容を確認し、一人ひとりに対する支援について話し合う場を設けている。		

14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0	・日々の会議の中で支援計画の共有を行い、計画に沿った支援を行えるようにしている。 会議のなかで計画に基づいて支援内容を話し合いを行い、日々の支援につなげている。
15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8	0	・日々の会議の中で、子どもたちの様子を職員全体で共有するなど、適切に確認を行うことが出来ている。前日の気になる子について話し合うことで、標準化されたツールやアセスメントを確認して行動観察していけるようにしている。
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	・支援計画をつくる中で、アセスメントやモニタリングを適切に行い、内容を踏まえたうえで、必要な支援に対する具体的な支援内容などを設定している。
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	・日々の会議の中で、全体で行っている。毎日の会議の中で行っている。担当制で週案を作り、毎日の会議で話し合いをしている。情報を共有しながらプログラムを立て、週案を作成している。毎日の会議でくれよんコンテの垣根なく全体を一つのチームとしてプログラムの立案を行っている。
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	・五領域を意識して活動を考えることで、固定化しないように工夫を行うことが出来ている。週案を立てていくなかで、五領域を用いながら工夫し固定化しないようにしている。 固定化ならないように職員全員で活動の話し合いをして工夫している。週ごとに5領域を順番に取り入れていくなどを行い、固定化しないようにしている。
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	・個別活動が必要と判断したときは臨機応変に活動の変更をしたりしながら活動を行っている。 ・子どもの年齢や成長過程に合わせて作成をしている。子どもたちの年齢や成長過程を考慮しながら作成している。無理に集団に入れず、状況に応じて個別活動を行っている。
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	前日に次の日の活動内容を確認し、それに必要な物を一人が全てを準備するのではなく、役割分担することでチーム全体で準備するようにしている。会議の時に確認し、連携して行っている。毎日のミーティングで、打ち合わせや確認を行っている。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8	0	・会議で支援の振り返りを行い、振り返りの内容は計画書やノートに残すことで、全体で共有出来るようにしている。次の日の会議で前日の振り返りや気になる子の様子を情報共有している。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	・申し送りを行うことで、職員全員で情報の共有を行い、日々の会議で支援の検証・改善につなげることが出来ている。職員間で申し送りをしてそれを記録に残し、全員が把握できるようにしている。
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	・定期的にモニタリングを行い、見直しをしている。 ・モニタリングを行い、それに伴って計画の見直しを行っている。
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	8	0	・複数組み合わせ支援を行えるように意識し、支援を行うことが出来ている。 ・週案を立てる際に、複数組み合わせることを意識して立てていくようにしている。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	・子どもが主体となって動けるように、子どもの意見を聞きながら支援を行うなど、臨機応変に対応することを意識して支援を行うことが出来ている。 ・活動も選択肢を用意する等、自己決定が出来るようにしている。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	・日々の活動の中で支援の現場に入っている職員が参加している。直接支援に携わる職員が常に参加している。
27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	・定期的に話し合いをする場を設けることで連携を図るようにしている。 ・福祉施設を訪問見学したり学校とも連絡を取り合っている。

28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0	・担任や、支援級の職員と直接連絡をとり、トラブルなどにも対応出来るようにしている。 ・引き渡しの時に様子を聞いている。下校時間なども電話などでやりとりをしている。	
29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	8	0		
30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7	1	・必要な情報を共有することが出来ている。福祉サービス事業所の見学に行くなどをすることで、お互いの情報共有や、今の支援について話し合う場を設けている。	
31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	8	0	・連携を図るなかで、事業所側も定期的に研修を行いそのなかで助言を受け取っている。	
32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	6		・今後は交流する場や活動を検討していきたい。交流の機会がなかなか持てないため、行事などを通して地域の方にプリントを配布していることを今後、児童クラブなどにも配布して交流をつくっていきたい。
33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	3	5		・積極的に参加ができていないため、自分から動いていけるようにしたい。 ・機会があれば参加したい。
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	・送迎時に様子を伝えたり個別で面談を行うことで、共通理解を持ちながら、保護者の方が話しやすい環境をつくることも心がけている。 ・送迎時はその日の様子を伝えたり、アセスメントを取り発達の状況や課題を確認している送迎時に保護者と伝え合い共通理解を持っています。	
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0	・個別面談や保護者会を行うことで、情報の共有や個別での対応が出来るように工夫している。 ・保護者会を行い情報提供を行ったり、お互いに話したりする機会を作っている寄り添いながら支援しています。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	・契約時に丁寧な説明を行っている。担当者会議のなかで丁寧な説明を行っている。 ・説明時は細かく伝えるようにして、わからないところははないかなど確認しながら行っている。	
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	・送迎時や個別の面談、担当者会議などで意向を聞き、確認する機会をつくっている。 ・送迎時などで確認している。遊楽を作成しているが、活動は無理に動めず本人の意思を確認したり、土曜レクは選択制にしている必要な時には常に面談をするなど機会を設けています。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	・支援内容について、保護者に直接対面で説明を行い、同意を得ている。計画書ができれば、保護者に手渡す際に支援内容をこまかく説明し同意を得ている。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0	・送迎時などに情報を共有し、必要に応じて個別の面談を行うなど、適切な支援を行うことが出来ている。送迎時での会話で困りごとや様子が気になるときは、早急に面談をする段取りをとっている。	
40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	0	・保護者会を行い、そのなかで学年ごとに分かれてグループをつくり、交流する場を設けている。 ・きょうだい同士の交流は保護者会を行っている最中に待っている場で交流する機会を設けている。	
41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	・職員間でも情報を共有し、連絡を迅速に取りながら適切に対応することが出来ている。苦情があったときは、まず管理者が対応し、その後社長に現状を報告し適切に対応を行うようにしている。	

	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	・フェイスブックやインスタグラムを活用し、週1回のブログ更新を行って、情報を発信している。 ・活動などのお知らせや予定は、ハグノートにて情報を発信している。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	・鍵のかかる書庫で個人情報の保管を行ったり、パソコンのセキュリティを強化するなど、十分留意している。常日頃から個人情報の取扱いについて話しをすることで十分に留意することができている。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0	・LINEやハグノートを活用し、情報伝達を迅速に出来るように配慮している。子どもや保護者一人ひとりの状況に合わせて配慮を行うことができている。話しをすることが難しいときは話す内容をまとめてから話しをするようにしている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	・事業所の行事をチラシをつくったり、SNSを活用して発信している。夏祭りなど地域住民や自治会に向けお知らせのプリントを配布している。SNSを使って発信している。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	・マニュアルを作成し、マニュアルに沿った定期的な訓練や研修を行うことが出来ている。定期的な研修や訓練を行っている。また、通信のなかでそれぞれのマニュアルを載せることで周知するようにしている。マニュアルを職員間で共有している。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	・BCPを策定し、必要な訓練や研修を定期的に行うことが出来ている。定期的に行うことができている。月に合わせて訓練内容を変え行うようにしている。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8	0	・服薬の情報など、全体の会議で共有を行うことが出来ている。変更などがあつた場合は、迅速に職員で共有できるように、LINEでの申し送りや、会議の場を設けることが出来ている。看護師を中心に薬を服用している子は、何を服薬しているか、服薬が変わったときはその都度会議で情報を共有している。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	・職員間で情報を共有し、該当者がいる場合は指示書に基づいて対応している。職員間で情報を共有し、適切な対応ができるようにしている。医師の指示書に基づき対応している。アレルギーを特定しその除去食を作ったりおやつなども細心の注意を払っている。食物アレルギーについて該当者がいるときは対応していません。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0	・安全管理に必要な研修や訓練を定期的に行い、職員が常に安全に意識を持ちながら支援が行えるように努めることが出来ている。研修や訓練を定期的に行い、職員一人ひとりが安全管理に努め十分な支援を行うことが出来ている。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0	・避難場所や、緊急時の連絡先などの周知を行い、家族等との連携が図られるように努めることが出来ている。緊急連絡先をこまめに確認することで連携を図り、また事業所の安全計画を元に避難場所を決め、それを知らせることで家族への周知を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	・ヒヤリハット事例について、係りをつくり事例検証を行い、職員間で共有することで、再発を防止するよう努めることが出来ている。怪我などが起こりそうになったときはヒヤリハット、怪我をしたときはアクシデント報告書、分けて作成している。前日の内容を次の日の会議で話し合うことで再発防止に向けて方策している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	・虐待防止委員会をつくり、日々の状況把握を行い、定期的な研修を行うことで、職員の意識づくりと適切な対応を学ぶ機会を設けることが出来ている。 ・研修を行い、報告書を作成することでアウトプット知識を深め、虐待の防止、発見に努め、適切な対応が出来るようにしている。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0	・身体拘束防止委員会をつくり、定期的な研修を会社全体で行うことで、適切な対応を学ぶ機会を設け、保護者にも文章等で伝えることが出来ている。 ・委員会で毎週確認、報告、記録をしている職員による委員会を設置し計画書に記載しています。身体拘束委員会を設けている。身体拘束に関する研修を実施している。	